

VI 中東・アフリカ

中東・北アフリカ地域概観

2013年の経済成長率は減速の予測

IMFによると、2012年の中東・北アフリカ(IMFが定義するMENA^(注1))の実質GDP成長率は4.8%と、2011年(4.0%)から上昇した。産油国は油価の高止まりと産油量の拡大によって、リビア(104.5%)、イラク(8.4%)、サウジアラビア(6.8%)、カタール(6.6%)、クウェート(5.1%)などの経済が好調な一方で、米国、EUを中心とした国際社会から経済制裁を科されているイランは原油の生産・輸出が減少しマイナス1.9%の成長だったが、全体で5.7%の成長となった。非産油国(MENAの非産油国にアフガニスタン、パキスタンを加える)は2011年に南部地域が南スーダン共和国として分離独立したスーダン共和国(マイナス4.4%)、内戦が続くシリアの影響を受けるレバノン(1.5%)、国内が安定せずIMFからの融資が合意のなかったエジプト(2.2%)などが低調で、全体では2.7%の低成長だった。

IMFは2013年5月の予測で、MENAの2013年の実質GDP成長率が3.1%に減速すると発表した。うち、産油国は3.2%に低下、非産油国は3.0%に上昇するとした。

2011年3月の大規模デモが内戦に拡大したシリアでは10万人以上が命を落とし、終結のめどが立っていない。イランでは2013年6月に大統領選挙が実施され、保守穏健派のローハニ師が改革派の支持も集め、当選を果たした。国際社会はローハニ師の当選を歓迎し、国際社会とイランの関係改善に期待をしつつも、核開発問題は当面解決しないとの見方をしている。エジプトでは2013年7月、モルシ大統領の就任1周年を機に、反政権デモが全国に拡大。国内の混乱収束を目的にエジプト軍が介入し、モルシ大統領を解任した。域内の政情不安は2013年に入っても続いている。

MENAの貿易は輸出入ともに増加

2012年のMENA(IMFの定義)の貿易額をIMF統計で見ると、輸出が前年比6.6%増の1兆3,360億3,400万ドル、輸入が10.4%増の9,267億2,400万ドルとなった。

主要相手国側の統計で、MENAの貿易をみると、EU27の2012年の対MENA輸出は2,308億561万ドル(3.6%増)、輸入は2,228億6,562万ドル(2.7%増)だった。主な輸出品目は、機械類、電気機器、輸送機器などとなって

いる。輸出先はアラブ首長国連邦(UAE)が最大で、次いでサウジアラビア、アルジェリアの順となった。主な輸入品目は、サウジアラビア、リビア、アルジェリアなどからの鉱物性燃料だった。

中国は、輸出が1,027億7,990万ドル(11.1%増)、輸入が1,565億4,895万ドル(5.6%増)だった。主な輸出品目は、機械類および電気機器などである。輸出先はUAEが最大で、次いでサウジアラビア、イランの順となった。主な輸入品目は、サウジアラビア、イラン、オマーン、イラク、UAEなどからの鉱物性燃料だった。

米国は、輸出が660億3,879万ドル(17.1%増)、輸入が1,118億1,104万ドル(12.5%増)だった。輸出上位国への主な輸出品目は、航空機、輸送機器(UAE)、輸送機器、機械類(サウジアラビア)、穀物(エジプト)などだった。主要輸入品目は、サウジアラビア、イラク、クウェートなどからの鉱物性燃料だった。

韓国は、輸出が351億7,804万ドル(13.0%増)、輸入が1,269億646万ドル(7.1%増)だった。主な輸出品目は、

表 中東・アフリカ地域主要経済指標

	年	(単位:%)	
		中東・北アフリカ	サブサハラ・アフリカ
(1)実質GDP成長率	2012	4.8	4.8
	2013	3.1	5.6
	2014	3.7	6.1
(2)消費者物価上昇率	2012	10.7	9.1
	2013	9.6	7.2
	2014	9.0	6.3
(3)経常収支(GDP比)	2012	12.5	△2.8
	2013	10.8	△3.5
	2014	8.9	△3.9

	年	(単位:100万ドル)	
		中東・北アフリカ	サブサハラ・アフリカ
(4)対世界輸出	2011	1,252,798	387,097
	2012	1,336,034	383,660
(5)対世界輸入	2011	839,123	381,481
	2012	926,724	402,723
(6)対日本輸出(日本の輸入)	2011	164,213	15,299
	2012	171,488	18,835
(7)対日本輸入(日本の輸出)	2011	24,951	10,799
	2012	30,024	9,875

[注] 中東・北アフリカは、IMFで定義された Middle East, North Africaの20カ国。サブサハラ・アフリカは、(1)~(3)がIMFで定義された Sub-Saharan Africa。(4)(5)が、IMFの定義にジブチ、ソマリア、スーダンの値を合算し、エリトリアを除く。(6)(7)が、IMFの定義にジブチ、ソマリア、スーダン、モーリタニアの値を合算。

(1)~(3)の2013、14年は予測値。

[出所] (1)~(5)はIMF、(6)(7)は財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成

機械類、輸送機器、電気機器、鉄鋼などで、輸出先はサウジアラビア、UAE、イランの順だった。主要輸入品目は、サウジアラビア、カタール、クウェート、UAE、イラクなどからの鉱物性燃料だった。

■トルコ・サウジへの対内直接投資が100億ドル以上

国連貿易開発会議(UNCTAD)によると、北アフリカと西アジア諸国^(注2)の2012年の対内直接投資(ネット、フロー)は、前年比1.9%増の586億2,100万ドルだった。最大の投資受け入れ国はトルコ(124億1,900万ドル、22.6%減)で、2位のサウジアラビア(121億8,200万ドル、25.3%減)とともに100億ドルを超えた。3位はUAE(96億200万ドル、25.0%増)だった。

対外直接投資(ネット、フロー)は前年比2.5%減の270億7,500万ドルでクウェート(75億6,200万ドル、15.0%減)、サウジアラビア(44億200万ドル、28.3%増)、トルコ(40億7,300万ドル、73.4%増)の順に大きかった。前年2位のカタール(18億4,000万ドル、69.5%減)は減少、リビア(25億900万ドル、19.2倍)は大幅に増加した。

MENAの2012年の対内クロスボーダーM&A件数(域内含む)は145件だった(トムソン・ロイター)。国・地域別では、UAE(39件)、エジプト(25件)、ヨルダン(15件)、サウジアラビア(15件)、モロッコ(10件)が10件を超えた。大型案件は通信などの分野でみられた。

対外クロスボーダーM&A件数(域内含む)は、172件だった。国・地域別では、UAE(54件)、カタール(31件)、バーレーン(29件)、クウェート(15件)、サウジアラビア(15件)、オマーン(10件)が10件を超えた。大型案件は資源、通信、金融などの分野でみられた。

■日本の輸出が増加するも貿易赤字は拡大

日本の通関統計をドル換算すると、2012年の日本の対MENA貿易は、輸出が前年比20.3%増の300億2,398万ドル、輸入が4.4%増の1,714億8,773万ドルで、貿易赤字は前年の1,392億6,187万ドルから、1,414億6,375万ドルに拡大した。

主な輸出品目は乗用車等の輸送機器で、国・地域別では、UAE(20.0%増、89億5,633万ドル)、サウジアラビア(26.2%増、82億1,862万ドル)、の2カ国で6割弱を占めた。輸入の主要品目は、原油や液化天然ガスなどの鉱物性燃料。国・地域別ではサウジアラビア(8.3%増、547億7,164万ドル)、UAE(2.6%増、439億8,183万ドル)、カタール(18.9%増、358億5,468万ドル)、クウェート(15.9%増、152億2,472万ドル)、イラン(38.2%減、79億5,838万ドル)が上位で、これら上位5カ国からの輸入はMENA

からの輸入の約9割を占めた。

2012年の日本の中東^(注3)への直接投資(財務省発表の国際収支ベースをドル換算、ネット、フロー)は4億4,700万ドルで、前年の7億1,600万ドルから減少した。国・地域別では、UAEが3億6,400万ドル、サウジアラビアが4,100万ドルなどだった。中東からの直接投資(同)は、前年の1億4,200万ドルから、1億1,500万ドルの引き揚げ超過となった。

(注1) アルジェリア、バーレーン、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン

(注2) (注1)からジブチ、イラン、モーリタニアを除き、トルコ、パレスチナ、西サハラを追加。

(注3) サウジアラビア、アラブ首長国連邦、イラン、イラク、バーレーン、クウェート、カタール、オマーン、イスラエル、ヨルダン、シリア、レバノン、ガザ地区、イエメン、リビア、エジプト

サブサハラ(サハラ砂漠以南)・アフリカ地域概観

■産油・鉱物産出国中心に高い伸び、好調な内需も牽引

IMFによると、2012年のサブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ)の実質GDP成長率は4.8%と、2011年(5.3%)からはやや低下したものの、引き続き好調を維持している。高止まりする資源価格が鉱業分野への投資と輸出を牽引していることに加え、旺盛な消費が高成長を支えている。域内最大産油国のナイジェリアでは大洪水や産油地の住民等による石油施設破壊により、農業部門と石油生産に悪影響が出た。南アフリカ共和国(以下、南ア)でも労働争議による鉱業生産鈍化などの問題もあったが、2013年は域内のインフラ改善効果も見込まれることから、5%を超える成長軌道に戻るものと期待される。

産油国ではアンゴラ(8.4%)やナイジェリア(6.3%)など、中所得国では選挙後の混乱を経て復興需要が高まるコートジボワール(9.8%)やガーナ(7.0%)が高成長をみせる一方で、南ア(2.5%)はストライキや欧州需要減の影響などから域内平均成長率を下回った。低所得国でも主に資源開発投資に沸くモザンビーク(7.5%)、コンゴ(旧ザイール)(7.1%)、タンザニア(6.9%)に加え、エチオピア(7.0%)などが堅調に伸びた。

■横ばいに転じた対外貿易のなかで、中国は伸長

2012年のサブサハラの貿易額は(IMF推計)、輸出が

前年比 0.9%減の 3,836 億 6,000 万ドル、輸入が 5.6%増の 4,027 億 2,300 万ドルとなった。前年は輸出入とも 20%を超える伸びであったが、原油の対米輸出が大幅に減少するなど一服感がみられた。

主要相手国側の統計で、サブサハラのアフリカの貿易をみる。EU27 の 2012 年の対サブサハラ輸出は 1,015 億 939 万ドル(3.0%減)、輸入は 1,196 億 135 万ドル(3.1%増)となった。主な輸出品目は、一般機械(構成比 18.1%)、石油などの鉱物性燃料(16.9%)、自動車(10.5%)などで、輸出先は南アが最大、次いでナイジェリア、アンゴラの順となった。主な輸入品目は、ナイジェリアやアンゴラから輸入する原油などの鉱物性燃料(構成比 54.7%)、南アなどからの貴石・貴金属(13.7%)、コートジボワールなどからのカカオ(4.1%)であった。

中国は、輸出が 646 億 2,321 万ドル(14.8%増)、輸入が 1,023 億 3,759 万ドル(17.7%増)となった。サブサハラにとって最大の貿易相手国である中国との貿易は毎年 2 桁の伸びをみせ、2012 年の輸入は遂に 1,000 億ドルの大台を超えた。主な輸出品目は、携帯電話などの電子機械(構成比 12.9%)、コンピューター・同部品などの一般機械(11.3%)などだった。輸入では、原油など鉱物性燃料が 45.5%を占め、主にアンゴラ、コンゴ共和国が調達先だ。

米国は輸出が 224 億 7,263 万ドル(6.3%増)、輸入が 496 億 2,510 万ドル(33.2%減)だった。主な輸出品目は建設機械部品や自走式ブルドーザーなどの一般機械(構成比 19.5%)、乗用車などの輸送機器(17.3%)だった。輸入では、大半を占めていたナイジェリアやアンゴラからの原油(構成比 74.0%)が約 4 割減少した。シェール革命により、同等の油質とされるアフリカ産原油への需要が減少しているとみられる。

■ 資源国を中心に投資流入が継続

UNCTAD によれば、2012 年のサブサハラの内直接投資(ネット、フロー)は、410 億 600 万ドル(前年比 1.9%減)だった。最大の投資受け入れ国は、ナイジェリア(70 億 2,900 万ドル、21.2%減)で、次に天然ガスや鉱山開発などの大型プロジェクトを抱えるモザンビーク(52 億 1,800 万ドル、96.0%増)が続いた。そして域内最大の経済規模を誇る南ア(45 億 7,200 万ドル、23.8%減)、コンゴ(旧ザイール)(33 億 1,200 万ドル、96.3%増)、ガーナ(32 億 9,500 万ドル、1.4%増)の順であった。投資受け入れ総額は前年から微減であったが、資源国を中心に、引き続き投資流入が続いている。

また、2012 年のサブサハラの内クロスボーダーM&A 件数は、151 件だった(トムソン・ロイター)。国別では、南

ア(54 件)、ナミビア(11 件)、ナイジェリア(10 件)が上位に入った。産業別では、鉱業(46 件)、ビジネス・コンサルタント・サービス(15 件)、食品・関連製品(11 件)、石油・ガス精製(8 件)、農林水産業(8 件)などとなった。大型案件では、英リオ・ティントが南アの資源会社リチャーズ・ベイ・ミネラルズの株式を 74%まで買い増し(19 億 1,000 万ドル)、英ユーラシア・ナチュラル・リソースがコンゴ(旧ザイール)のファースト・クワンタム・ミネラルズを買収(12 億 5,000 万ドル)するなどの案件があった。

■ 対日貿易は増加するも、日本の赤字幅は拡大

日本の通関統計をドル換算すると、2012 年の対サブサハラ貿易は輸出が前年比 8.6%減の 98 億 7,469 万ドル、輸入が 23.1%増の 188 億 3,535 万ドルだった。その結果、貿易赤字は前年の 45 億ドルから、89 億 6,066 ドルとほぼ倍増した。

輸出では、自動車(構成比 37.3%、前年比 2.7%増)、船舶(23.6%、29.5%減)、一般機械(15.5%、4.0%減)の 3 品目で全体の 7 割以上を占めた。輸出国・地域別では、大半の自動車輸出先である南ア(41.2%、6.0%減)、便宜船籍国のリベリア(23.3%、29.8%減)で 3 分の 2 を占めている。輸入では、原油や液化天然ガスなどの鉱物性燃料(59.5%、97%増)、次いでプラチナなどの非鉄金属(15.1%、63.6%増)、鉄鉱やフェクロクロムなどの金属原料(7.9%、8.4%増)となった。輸入国・地域別では、南ア(34.1%、24.2%減)の 1 位は不変であったが、鉱山ストの影響から非鉄金属の輸入は急減(54.5%減)した。発電用燃料の原油や液化天然ガスの輸入先であるナイジェリア(25.3%、2.8 倍)と赤道ギニア(15.5%、2.2 倍)は、前年に続き大幅増となった。日本とサブサハラのアフリカの貿易は、自動車や船舶、一般機械を輸出し、鉱物性燃料や非鉄金属を輸入するという関係が続いており、貿易相手国も一部の国に偏在している。

2012 年の日本の対アフリカ直接投資(財務省、国際収支ベース、北アフリカ含む)は 1 億 1,600 万ドルで、前年の 4 億 6,400 万ドルから大幅に減少した。リーマン・ショック以降の引き揚げからは脱しつつあり、今後も継続的な投資の維持・拡大が望まれる。日本政府は 6 月に横浜で第 5 回アフリカ開発会議(TICAD V)を開催、今後 5 年間で官民合わせて 320 億ドル規模の支援を行うと発表した。貿易・投資保険枠の設定や資源開発資金の供給、さらには投資協定の締結促進など、ビジネス拡大に向けての制度的かつ政策的な支援メニューは手厚くそろえられた。こうした支援策を有効活用し、日本企業が本格的にアフリカビジネスに乗り出す契機となるのか、今後が注目される。